日刊 動労千葉

79.3.12

No. 56

国鉄動力車労働組合
千葉地方本部
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二三五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

『日刊動労千葉』を活用し、第32回臨大方針を学習しよう！

3/8地本教宣部長会議開催される

'78年度地本教宣部長会議は3月8日、動力車会館で開催され、革マル・一部反動分子の千葉地本排除＝破壊攻撃に対し、反撃・粉砕してゆく教宣体制の確立へ向けて、『日刊動労千葉』の活用をはじめとする具体的な取り組み等を確認・決定した。

会議は地本・林文化部長を座長に進められ、関川委員長の挨拶の後、布施教宣部長より総括・方針が提起された。

闘う教宣体制の確立を！

提起は、まず、この間の情勢・総括に関して行われた。（第33回水上大会からの動労運動の変質の開始→第34回津山大会での「変質」の全面開花→第10回定中委での地本三役・地青三役への査問委設置→昨年12月段階から今年3～4月の水上町「指令なき集団」事件に至るむき出しの破壊攻撃の強まりとわが千葉地本の勝利的闘い、の経過が明らかにされた。）

そして「この破壊策動の強まりに対処すべく2月10日に開催された第32回地本臨時大会で、動労を二分する路線対立の核心点が『水本』『三里塚』『貨物安定宣言』『ファッシ』的組合支配』であることが鮮明にされている。従ってわれわれは、この路線対立の核心点について学習し、全体化し、80年代へ向けた労働運動の構築を目指す千葉地本の体制を強化し、全国へ呼びかけてゆく『闘う教宣活動』を実践しなければならない。」として、具体的には次の各点について

(1)『日刊動労千葉』の発行・配布体制確立
(2)機関誌『動労千葉』第五号の発行について、
(3)『速報・動力車千葉』の発行と活用について、
(4)地本・支部での学習会の開催について
(5)支部機関紙・誌・ハペ新聞等の発行状況など、各支部の教宣体制について、

以上の提起をうけて討論に入り『日刊』『学習会』を軸に、その具体化にむけた検討がなされた。

『日刊』の家庭持ち帰り運動を！

『日刊』については、次のような意見が出された。

●配布体制は、さまざまな試行錯誤のすえ大体軌道にのってきたし、徐々に全体が読むようになってきた。しかし家庭への持ち帰りにまだ困難性がある。

●内容については、用語をできるだけやさしくして、活字を余り小さくしないでほしい（高齢者）。

●タイプより手書きの方が親しみが持てる。交渉関係やサークル関係ももっとのせてほしい。

『日刊』編集委員会は教宣部長会議で出された意見をふまえ、更に充実した内容と体制確立にむけ決意を新たにすると共に、全組合員・家族が更に『日刊』を支え、活用されんことを訴えます。

『日刊』の家庭持ち帰り運動を展開しよう。

『頑張って！』遠くの支持者からの電話

3月×日、8時33分、地本の鉄電が鳴った。

『（××）地本の者です。名前は云えないが毎日『日刊』を見ている。51号まで届いた。頑張ってほしい。先日、革マルが、黒磯問題のオルグだといって五人程駐場に入ったが追い返した。千葉は是非頑張って欲しい。皆さんによろしく』

おはよう？はい！『日刊』です

―毎朝続けている『日刊』朝ビラ―

（幕張支部青行隊・A君より）

僕は幕張に来て一年位になります。幕張では一月八日の『日刊動労千葉』の発行をうけて、その活用について皆で討論してきました。そして青行隊の任務として、毎朝出勤してくる仲間に「朝ビラ」として手渡そう、ということに決めました。朝、地本から運んでくる任務も当番制に決め、誰よりも早く駐場に行って仲間の出勤を待つのです。開始してからほぼ二ヶ月間、大体欠かさず、雪の日でも毎日"朝ビラ"をやり通してきました。

最初のうち恥かしさもてつだって、仲間に差し出す手も思うように動かず、まして挨拶などはのど元でつっかえて、行き過ぎてからようやく小声で「おはようございます」というような感じでした。

それでも先輩を見ならったりしながら連日頑張る中で、年輩者の中からも「オッ、頑張ってるな！」とか「ハイ、ごくろうさん」と逆に声をかけられるようになってきました。職場の性格上、国労の人たちにも手渡す訳ですが、結構熱心に読んで、討論や、質問をうけることもあります。

朝、配った『日刊』を、時々年輩者の方が昼休みに駐場でポケットから出して開げて読み直している姿などを見かけて、まるで自分の作ったビラのように、うれしくなったりもします。地本・支部防衛体制の定着化の中で今日では、この「朝ビラ」は、完全に、わが幕張青行隊の日課になっています。